

あいち病害虫情報 最新情報

平成 22 年 4 月 16 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

ムギ類赤かび病に注意！

ムギ類赤かび病の防除適期は、穂ぞろい期から開花初期までです。本年のコムギの出穂期は平年より4日ほど早くなっています。15日発表の週間天気予報によれば、向こう1週間は、気圧の谷や前線の影響で雲が広がりやすく、期間のはじめと終わりに雨の降る日がありますが、期間の中頃は高気圧に覆われ晴れる日もある見込みとなっています。最高気温および最低気温は、平年並か平年より低く、降水量は平年並で、感染の好適条件となるおそれは少ない見込みです。しかし、すでに多くのほ場で赤かび病の防除適期を迎えており、今後、天候推移に注意しながら、穂が出そろったほ場から順次防除を進めましょう。

水稻の育苗期防除

普通栽培の播種作業が始まります。次の点に注意して適正な種子消毒に努めましょう。

- 1 稔実不良もみは病原菌が付いている可能性が高いので、塩水選により取り除く。
- 2 細菌性病害に効果のあるスターナ水和剤やテクリードCフロアブルなどを加えて、種子消毒を行う。
- 3 薬液温度は15～20℃とし、処理濃度と時間を守って、薬剤処理する（浸漬処理法の場合）。処理後、種子に薬剤を十分に付着させるためによく風乾する。
- 4 高温での浸種や長時間催芽は細菌感染を助長するので避ける。
- 5 出芽温度は30～32℃を守って、出芽器の中で長時間加温しないようにする。
- 6 種子消毒後の廃液は、適正に処理する。
- 7 種子消毒後は病原菌の汚染がないよう管理する。

浸漬処理後の廃液処理が困難な場合には、種子粉衣（湿粉衣法）や塗沫法などの消毒方法に切り替えましょう。また、温湯種子消毒やエコホープドライなどの微生物農薬を利用するのも良い方法です。ただし微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が低いと効果が劣る場合があるので、注意しましょう。また、温湯種子消毒を行う際は、適切な処理温度、時間を守りましょう。

チャバネアオカメムシの注意報発表！

ウメ、モモにおいて果樹カメムシ類の主要種であるチャバネアオカメムシの多発が予想されますので、平成22年4月16日付で「平成22年度発生予察注意報第1号」を発表しました。防除対策等の詳細はそちらを参照してください。なお、チャバネアオカメムシの越冬成虫は7月下旬頃まで生存し、ブドウ、ナシ、カキの果実にも大量飛来することが予想されますので、今後、ブドウ、ナシ、カキにおいても着果以降に注意が必要です。

落葉果樹の病虫害

ナシヒメシンクイ越冬世代成虫のフェロモントラップにおける誘殺数は、3月下旬は冷え込みにより少なかったですが、4月に入って長久手町、安城市で急激に増加しています。

越冬世代成虫は、今後、展葉したモモの葉に産卵し、ふ化した幼虫が新梢に食入して芯折れを引き起こしますので、モモハモグリガとともに防除しましょう。

モモハモグリガの越冬世代成虫のフェロモントラップによる誘殺数は今のところ平年並みの状況です。しかし、第一世代ふ化幼虫の防除適期を逃すとその後の世代は生育ステージがばらつくため、防除が難しくなります。落花1週間後を目安に適期に防除しましょう。

ナシ黒星病は、昨年の発生が多かったため注意が必要です。4月上旬の発病花そう基部率調査で発生を確認していませんが、降雨が続くと発生量が増加するおそれがありますので注意しましょう。ナシ赤星病の冬孢子層は、すでに成熟して小生子の飛散も始まっています。開花後の防除適期を逃さないように注意し、降雨が続く場合は、黒星病などとともに防除を行いましょう。

ブドウ黒とう病は、展葉初期から新梢伸長期に降雨が続くと多発しやすくなります。伝染源である前年の罹病枝や巻きひげは、切り取って適切に処分するとともに、適期防除を心がけましょう。

果菜類の灰色かび病

トマト、ナス、キュウリ、イチゴでは、灰色かび病の発生が多い状況が続いています。施設内の換気に努めるとともに、ローテーション防除を心がけましょう。

ナスでは曇雨天の影響ですすかび病の発生が増加しています。換気を十分行い、過剰なかん水を避けるなど湿度を上げないようにするとともに、肥料切れに注意し、ローテーション防除を心がけましょう。また、ミナミキイロアザミウマの発生が依然多い状況が続いています。防除の徹底を図りましょう。

ウイルス媒介虫を施設外に出さないようにしましょう！

トマト黄化葉巻病やキュウリ黄化えそ病の防除対策の基本は、ウイルス媒介虫を施設内に入れない、施設内で増やさない、施設外に出さないの3つです。次作の感染源を減らすためにウイルス媒介虫を施設外に出さないことを徹底しましょう。

トマト黄化葉巻病が発生している施設では、収穫終了後、残さを持ち出す前に施設を密閉してウイルスを媒介するタバココナジラミを死滅させましょう。

キュウリ黄化えそ病が発生している施設が見られます。自然換気が行われる時期ですが、施設開口部にはネット等を張り、施設外にミナミキイロアザミウマを出さないようにしましょう。

- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。

ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については
<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/minor.html> をご覧ください。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820